

優秀賞

## 職場体験学習にて

麗澤瑞浪高等学校 2年 川上 智央

「浴槽と会話がすべり秋麗」。これは僕が中学校一年の時に行った福祉施設での職場体験学習を振り返り詠んだ俳句だ。この句は当時の僕が感じた「壁」を滑稽に表現している。

体験学習初日。福祉の仕事に携わるのはそれが初めてだった。二日間の体験学習の中、仕事は洗濯、掃除、先の句にもあるように風呂掃除など様々だった。その中でも僕が苦労したのは利用者とコミュニケーションをとる仕事であった。彼らの遠い耳、見つからぬ話題、約三四半世紀に及ぶ歳の差……。これらの「壁」は僕の足を止め、初日は自分から動くことができなかった。その一方、友人のアオイは利用者と打ち解けていた。彼女の夢は介護士。母が介護士で、その背中を追っているのだ。それにしても敏腕な仕事ぶりで、施設の職員と言われても違和感はない。たまたま僕はその帰り道で、

「なんでお年寄りとおんなに仲良くなれるんや」

と聞いた。するとアオイはいつもの甲高い声で、

「相手の立場に立って、敬意をもって接してみりん。それだけで全然違うよ。」

……なるほど。自分に足りていなかったのは利用者の方に対する思いやりと敬意だ！

二日目、僕は「壁」を破るために、まず話すときに膝を曲げて目の高さに合わせて。そして目を見て、笑顔も意識した。すると、一日目より清々しい気がした。また「ありがとう」と言ってもらえることも多くなり、やりがいを感じられるようになった。思いやりや敬意という他者に対する気配りの意識は、行動で伝えなければならぬことを、「壁」を破ることで知ることができた。

「浴槽と会話がすべり秋麗」……。もう会話は滑らないぞ！